

くちのえらぶじま

口永良部島の火山活動についての国土交通省の対応状況

(6月1日14時時点)

1. 噴火の概要等

○発生日時：平成27年5月29日9時59分

火砕流が噴火口から南西側および北西側の海岸に到達（噴火直後の噴煙高度は火口上9000m以上）。

○31日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測では、火砕流の流下が確認された山麓や海岸付近の状況に特段の変化は認められなかった。

○1日夜は、曇りで雨の降る所がある見込み。2日からは、前線や湿った気流の影響で雨の降る日が多い見込み。

2. 島民の避難状況（島民等138名が屋久島に避難完了）

○番屋ヶ峰から3名が鹿児島県防災ヘリにより搬送済み。（火傷1名、心臓病1名、付添者1名）

○湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に収容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。

○番屋ヶ峰の避難者125名を乗せたフェリー「太陽」が屋久島宮之浦港到着

○そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。

○29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。

（消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。）

○屋久島の3カ所の避難所は次の通り。

- ・宮之浦老人憩いの家
- ・宮之浦公民館
- ・屋久島町福祉センター

3. 島民の一時帰島について

- ・口永良部島内の防火・防犯対策等のため、本村地区21名、湯向地区6名の計27名が漁船3隻により、1日8時30分から一時帰島し、無事帰還。
- ・自衛隊・国交省・鹿児島県警のヘリ、海上保安庁巡視船により、監視等を実施。

4. 国土交通省の対応状況

○国土交通省職員の派遣状況

- ・海上保安庁：屋久島町2名、鹿児島県庁0名
- ・気象庁：屋久島町2名、鹿児島県庁1名
- ・九州地整・九州運輸リエゾン：屋久島町3名、鹿児島県庁4名
- ・九州地整 TEC-FORCE：12名（ヘリ調査、監視カメラ設置等）

○防災ヘリによる調査状況

5月29日～6月1日 口永良部島上空より調査を実施（九州地整 はるかぜ号（5月29日～6月1日）、四国・中国地整 愛らんど号（5月31日））

○海上保安庁の対応

- 5月29日
 - ・機動救難士が番屋ヶ峰避難所の負傷者2名を救助
 - ・測量船が本村港沖でフェリー太陽の入港支援
 - ・巡視船及びヘリで湯向の島民6名を屋久島に搬送
 - ・巡視船で救助支援の関係機関職員を口永良部島に搬送
- 5月30日以降
 - ・巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

○気象庁の対応

6月1日 観測強化の一環として、地震計を増設予定

5. 初動対応・体制

- 5月29日 10:07 非常体制（気象庁）
- 10:08 非常体制（国土交通省、国土地理院、九州地方整備局、九州運輸局）
- 11:50 第1回対策本部会議（大臣指示を発出）
- 14:50 第2回対策本部会議
- 5月30日 10:30 第3回対策本部会議
 - うえの政務官が現地入りし、鹿児島県知事、屋久島町長と意見交換等を実施

口永良部島の火山活動について(第7報)

1. 本省及び地方支分部局の体制について

国土交通本省	5月29日	10:08	非常体制「当該災害に関する対策本部設置」				
九州地方整備局	5月29日	10:08	非常体制	九州運輸局	5月29日	10:08	非常体制
国土地理院	5月29日	10:08	非常体制	気象庁本庁	5月29日	10:07	非常体制
国土技術政策総合研究所	5月29日	10:08	非常体制				

2. 噴火の概要

○新岳では、5月29日09時59分に爆発的噴火が発生した。

○この噴火により、噴煙が火口上9,000m以上まで上がった。また、火砕流が発生し、新岳火口の南西側から北西側(向江浜地区)方向の海岸まで達した。

○5月31日に気象庁機動調査班(JMA-MOT)が実施した上空からの観測では、火砕流の流下が確認された山麓や海岸付近の状況に特段の変化は認められなかった。

3. 気象の見通し

○今日1日夜は、曇りで雨の降る所がある見込み。

○明日2日からは、前線や湿った気流の影響で、雨の降る日が多い見込み。

4. 島民の避難状況(島民等138名が屋久島に避難完了)

○番屋ヶ峰から3名が防災ヘリにより搬送済み。(火傷1名、心臓病1名、付添者1名)

○湯向集落の6名を海上保安庁の巡視船「さつま」に収容し、「さつま」から海保ヘリで屋久島に搬送済み。

○番屋ヶ峰の避難者125名乗せたフェリー太陽が屋久島宮之浦港へ5/29 17:30に到着し、5/29 18:45ごろに乗船者全員が無事に上陸

○そのほか、3名は漁船で避難、1名は発災時屋久島に所在。

○29日17:32時点で島内の所在者なしを確認。(消防、屋久島町役場、県職員、警察、海上保安官が全て離島。)

○屋久島の3カ所の避難所は次の通り。

- ・宮之浦老人憩いの家
- ・宮之浦公民館
- ・屋久島町福祉センター

5. 島民の一時帰島について

○口永良部島内の防火・防犯対策等のため、本村地区21名、湯向地区6名の計27名が漁船3隻により、6月1日8時30分から一時帰島。

2地区(本村地区・湯向地区)27名全員の現地作業が終了し、全員無事一湊港(屋久島町)へ帰港。

○自衛隊・国交省・鹿児島県警のヘリ、海上保安庁巡視船により、監視等を実施。

6. 国土交通省の対応

- ・5/29 11:50 第1回対策本部会議開催(大臣指示)
 - ・5/29 14:50 第2回対策本部会議開催
 - ・5/30 10:30 第3回対策本部会議開催
 - ・5/30 12:15 うえの政務官が現地入りし鹿児島県知事と意見交換等を実施
 - 屋久島町長と電話会談
 - 鹿児島県知事と意見交換
 - 第10管区海上保安本部における激励
- ※天候の悪化により、防災ヘリによる上空からの調査と屋久島町長との直接の会談ができなかった

〇リエゾン(情報連絡員)派遣

- ・海上保安庁より1県1町へ、のべ9人・日派遣(5/29~6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2	0	0		5
屋久島町	2	0	0	2		4
合計	5	2	0	2	0	9

- ・気象庁より1県1町へ、のべ12人・日派遣(5/29~6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	1	0	1		4
屋久島町	2	2	2	2		8
合計	4	3	2	3	0	12

- ・九州地方整備局より1県1町へ、のべ21人・日派遣(5/29~6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	3	2	2	2		9
屋久島町	3	3	3	3		12
合計	6	5	5	5	0	21

- ・九州運輸局より1県へ、のべ8人・日派遣(5/29~6/1)。

(単位:人)

派遣場所	5			6		合計
	29	30	31	1	2	
鹿児島県	2	2	2	2		8
合計	2	2	2	2	0	8

〇TEC-FORCEの派遣

- ・九州地方整備局より、防災ヘリコプターによる上空からの被災状況調査、映像配信、海陸による資機材運搬、情報収集のため、のべ41人・日派遣(5/29~6/1)。

(単位:人)

派遣元	派遣内容	5			6		合計
		29	30	31	1	2	
九州地整	被災状況調査(ヘリ)	4	3	3	5		15
	映像配信	2	2	2	2		8
	資機材運搬	2	2	0	0		4
	情報収集	0	1	1	1		3
	現地活動支援	0	3	4	4		11
合計		8	11	10	12	0	41

○防災ヘリコプターによる状況調査

- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/29)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、火山灰及び火砕流の分布状況について確認。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/30)。
- 九州地整防災ヘリコプター及び四国・中国地整局防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(5/31)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流等について確認。降雨後の顕著な土砂移動は確認されなかった。なお、天候不良により、火口周辺及び溪流上流部は視認できなかった。
- 九州地整防災ヘリコプターによる口永良部島上空からの調査を実施(6/1)。TEC-FORCE及び福岡管区气象台で、降灰状況、土石流危険渓流について確認。

○災害対策用機械等出動状況

整備局名	出動先	出動理由	機械名	台数	状況	期間
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	火山監視	Ku-SAT	1	稼働中	5/29～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	現地支援	情報収集車	1	待機中	5/30～
九州地整	屋久島町小瀬田	現地支援	待機支援車	1	待機中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	可搬ヘリテレ	1	稼働中	5/30～
九州地整	鹿児島県屋久島町永田地先	ヘリ映像中継	Ku-SAT	1	稼働中	5/30～

○調査観測兼清掃船「海煌(かいこう)」出港

九州本島との資材運搬等の輸送に備え、熊本港湾・空港整備事務所の「海煌」が八代港を出港

- 5/29 13:30 八代港出港
 - 5/30 00:45 鹿児島港入港
 - 5/31 08:50 鹿児島港出港(八代港向け回航)
 - 5/31 19:30 八代港帰還
- 乗船可能人員 12名(乗務員除く)

7. 気象庁の対応

- 5月29日10:07 噴火警報(居住地域)を発表し、噴火警戒レベルを3(入山規制)から5(避難)に引き上げ
- 5月29日10:40 火山の状況に関する解説情報を発表
- 5月29日11:10 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 5月29日11:30 記者会見
- 5月29日13:30、18:00 気象庁災害対策本部会議
- 5月29日16:00 火山の状況に関する解説情報の定期的な発表を開始(毎日10時、16時)
- 5月29日 復旧担当者・被災者向け気象支援資料の提供を開始(毎日5時、11時、17時頃更新)
- 5月29日 気象庁ホームページに口永良部島噴火の関連情報ポータルサイトを開設
- 5月30日06:40 鹿児島県の協力により、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 5月31日13:30 気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施
- 6月1日 口永良部島に地震計を増設する予定、気象庁機動調査班(JMA-MOT)が上空からの観測を実施予定

8. 海上保安庁の対応

5月29日

■巡視船・測量船

- 「拓洋」が本村港沖に到着(1150)。要救助者搬送準備・フェリー太陽の入港支援を実施
- 「さつま」が湯向港沖に到着(1232)。搭載艇により島民6名を「さつま」に救助後、ヘリで屋久島空港まで搬送
- 「とから」が、フェリー太陽の伴走警戒を実施(1542)
- 「こしき」が本村港沖到着(1600)。鹿児島から搬送した「警察22名、消防7名」のうち「警察10名」を口永良部島に搬送
- 「くさかき」が鹿児島から「日赤医師等7名及び救援物資」を屋久島に搬送(1740)

■航空機等

- ヘリが番屋ヶ峰避難所上空に到着(1158)。機動救難士が避難所に降下し傷病者2名(火傷1名、心臓病1名)を救助、県防災ヘリへ引継
- 「特殊救難隊(1個隊)、関西航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)、福岡航空基地ヘリ(機動救難士2名同乗)」を鹿児島基地に前進配備

5月30日～

- 巡視船2隻を口永良部島周辺海域に配備中

6月1日

- 「あかいし」及び「さつま」により、一時帰島への支援業務を実施

9. 国土地理院の対応

- ・過去の空中写真および災害対策用図を関係機関へ提供(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を撮影(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真を関係機関へ提供(5月29日)
- ・口永良部島の噴火周辺地域の空中写真をホームページで公開(5月30日)
- ・人工衛星(だいち2号)データを用いて口永良部島の地表の状態の変化を面的に把握しホームページで公開(5月30日) URL:<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h27-kuchinoerabu-index.html>

10. 所管施設等の状況

○道路関係

- 本村と湯向を結ぶ町道は噴石散乱のため通行不能との情報
- 本村と番屋ヶ峰を結ぶ町道は通行可能との情報

○河川関係、ダム関係、公営住宅関係、公園関係、宅地関係、下水道関係、官庁施設関係、鉄道関係、自動車関係、航空関係、海事関係、港湾関係、物流関係、観光関係等

- ・現時点で被害情報なし

問合先:水管理・国土保全局防災課災害対策室 池本 代 表:03-5253-8111 内線35-822 直 通:03-5253-8461
